

総合評価

受診施設名	綾東こども園	施設種別	保育所
評価機関名	きょうと福祉ネットワーク「一期一会」		

令和6年8月6日

総 評	<p>綾東こども園は、地域住民の要望等により昭和28年に開設され、昭和50年に社会福祉法人として認可、その後、平成28年より幼保連携型認定こども園「綾東こども園」として運営を行っています。立地としては、山々に囲まれ、田んぼのあぜ道や上林川が流れる自然豊かな環境にあり、年間を通じて自然と触れ合うことができます。また、地域の保育ニーズに応える形で地域子育て支援拠点事業として「たけのっ子くらぶ」や一時預かり事業、綾部市東綾放課後学級等も行っていきます。</p> <p>法人理念「子ども一人ひとりを大切に、保護者から信頼され、地域にも愛されるこども園をめざす」、教育・保育方針「生きる力の基礎を育み、豊かな子どもを育てる」を掲げ、教育保育目標として「りょうとうが育てる子ども像」を明確に示されています。教育保育方針のひとつに「豊かな感性と創造性を持つ子ども」を掲げ、保育現場でも、季節ごとの行事やイベントが豊富に行われており、子どもたちが様々な体験を通じて成長できるよう工夫されています。「遊びをみつける目(玩具がなくても遊べる力)」や創造力、主体性を育む保育が展開されていました。</p> <p>たとえば、子ども達が創作した立体物の制作や絵画など表現活動も体験できるよう工夫するとともに部屋を「人と自然の博物館」として展示されていました。また、食育にも力を入れており、畑やプランターで栽培した野菜や梅干しなどを収穫したり、クッキングをすることや給食の時間では、子ども達が自主的に食事の時間、食べる量、好き嫌い等を考慮して行動できるように日常保育の中で食育が実践されていました。</p> <p>地域とのつながりも良好で、日常的に異年齢による散歩や稲刈り後の田んぼでの経験をさせてもらっています。自治会や民生委員、高齢者施設等とのつながりも深くコロナ禍の中、交流が難しかった時期も世代間交流としてビデオレター(高齢者施設との動画メッセージ)やzoomなどを活用して関係構築を図っていました。</p> <p>運営面では、法人として期待する職員像を明確にしてキャリアパスに基づく年間研修が体系化されており、質の向上に努めています。また、訪問調査時も玄関を入ったときからあいさつや言葉遣いなど職員の対応が丁寧でチームワークのよさがうかがえました。</p> <p>情報発信の面ではホームページ、園だよりやブログを活用して園の様子等について掲載し、随時更新を行っていました。保護者との連絡もおたよりや連絡帳についてICTツールとしてアプリ(るくみん)を活用し、密な連携を図るとともに、保護者の負担軽減につながっています。</p> <p>一方で中長期計画について議論はされているとのことでしたが明文化したものが確認できませんでした。課題として園の特色などの情報発信、園児確保などをあげておられました。職員参画のもと、</p>
-----	---

	<p>中長期視点に立った検討が望めます。</p> <p>今後もさらに地域に根ざした保育園として、「園の主人公は子どもである」という園の事業目的に立った質の高い保育実践を目指していかれることを期待いたします。</p>
特に良かった点(※)	<p>Ⅱ－２－（２）①職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。</p> <p>職員の就業状況については園長が把握して、個々の職員のワークライフバランスに配慮し、年間有給休暇等が取りやすい環境に努めています。職員の個別の悩み等は管理者による個別面接や外部の臨床心理士につなげる仕組みがあります。福利厚生については、京都府民間社会福祉施設職員共済会に加入するとともに休憩室におやつやコーヒーを置くなどくつろいで休憩しやすい雰囲気づくりに努めています。</p> <p>Ⅱ－４ 地域との交流、地域貢献</p> <p>地域とのかかわりについては理念及び事業計画に明記をして世代間交流などに取り組んでいます。コロナ禍により交流が難しかった時期もビデオレターやzoomなど新しい交流の方法を模索して繋げていました。コロナ禍が明け、地域の自治会や高齢者施設の行事への参加やグループホームの利用者と「高齢者学級」を通じて交流する等の交流も再開し、災害時の対応についても自治会と協議しています。また、園庭を開放をして、園児と地域の方々とのふれあう機会を日常的に設けています。地域子育て拠点事業として「たけのっこくらぶ」を開催し、子育てについての保護者の相談や悩みに寄り添い支援を行うとともに未就学児童の受け入れも行っています。</p> <p>A－１－（２）④子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。</p> <p>玩具がなくても遊べる恵まれた自然環境の中、異年齢交えての散歩など地域との関わりを大切にして「遊びを見つける目(玩具がなくても遊べる力)」や創造力、主体性を育む保育が展開されています。立体物の制作や絵画など表現活動も体験できるよう工夫するとともに「人と自然の博物館）」として展示をしています。</p> <p>A－１－（４）①食事を楽しむことができるよう工夫をしている。</p> <p>食育は保育計画にも織り込んで取り組んでいます。大きなホールをランチルームとし、子どもが自主的に食事の時間、食べる量、好き嫌い等を考慮し行動できるように環境設定しています。また、栄養士と一緒に食事をして声を聞いたり、四季のものや郷土料理、自分たちで取ったもの（ピーマンなど）などがメニューとなったり、調理を手伝う機会もあります。献立は園の玄関に展示するとともに、ブログで写真を掲載したり、給食だよりも配布しています。給食参観（年1回）も行っています。</p>

<p>特に改善が 望まれる点(※)</p>	<p>I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。 単年度事業計画は、前年度の反省評価を踏まえ策定されていますが、中長期計画は策定されていないため、踏まえたものになっていませんでした。(議論はしているが明文化したものがありませんでした。)事業所理念に基づき中長期的ビジョンが必要とされます。法人として、長期ビジョン(概ね10年)、中期ビジョン(3年から5年)を職員参画のもと策定をし、進むべき道筋を明文化することが望まれます。</p> <p>Ⅲ-1-(5)①安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。 事故発生予防マニュアル及び事故・ヒヤリハット様式等を整備しています。上がってきた事例の分析検討を行い、管理者会議、職員会議等で改善を行っています。また、遊具チェックは毎月行い、安全に努めています。しかし、マニュアルの見直しが定期的な出来ていませんでした。また、記録には対応したについての記載がなく、いつ誰がどのように対応し解決に至ったかが分からない状況がありました。</p> <p>Ⅲ-2-(3)②子供に関する記録の管理体制が確立している。 特定個人情報取り扱い規程に保管、保存、廃棄、情報の提供等を明文化していました。しかし、個人情報にかかる開示請求の仕組みがありませんでした。また、電子データの取り扱いについても明記する方がよいと思われます。リスク管理の観点からも定まった様式及び手順等の整備が望まれます。</p>
---------------------------	---

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

